

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第46回日本古武道演武大会

第46回日本古武道演武大会



②天道流薙刀術

35 流派が武道源流の奥義を披露

第46回日本古武道演武大会（主催 日本武道館、日本古武道協会）が2月5日、古武道35流派、22名が集まり、約1500名の観衆が見守る中で開催された。昨年は新型コロナウイルスの影響で無観客での開催だったが、今年は3年ぶりに観客を入れての実施となった。大会では全国各地に脈々と受け継がれている伝統の技を各流派が披露した。

午前10時30分から開会式が行われた。初めに吉川英夫日本武道館理事・事務局長が開会を宣言。国歌清聴に続いて、高村正彦日本武道館会長・日本古武道協会会長が「昨年は無観客でしたが、今年は多くの皆様をお迎えして開催でき、大変嬉しく思います。日本の古武道は、武技の修練による心身の鍛錬はもちろん、武士道の伝統に由来する『勇気』『礼』『惻隠の情』など、心を養う人間形成の道であり、現代武道の源流をなすものであります。令和の時代は、古武道が日本の誇るべき伝統文化として広く国民に注目され、評価される時代になりたいと考えております。本大会が大成功となりますよ



内田康介日本古武道協会理事・事務局長



吉川英夫日本武道館理事・事務局長、日本古武道協会常任理事



臼井日出男日本武道館理事長、日本古武道協会理事長



高村正彦日本武道館会長、日本古武道協会会長



古武道功労者表彰を受ける
植月求初實釵理方一流剣術第十七代宗家(左)

う、演武者の皆様方のご健闘を心から祈念申し上げます」と主催者挨拶を行った。

続いて大会委員長の臼井日出男日本武道館理事長・日本古武道協会理事長が「演武者の皆様方には、日ごろから鍛錬されている古武道の技と心を遺憾なく発揮され、会場の皆様はもちろん、そして後日、本大会の模様をネット配信し、世界中の愛好者の皆様に古武道の真髄を堪能していただけると期待します」と述べた。最後に来賓紹介と祝電が披露され、開会式は終了した。

引き続き古武道功労者表彰式が行われた。この表彰は毎年、協会加盟流派の中から古武道の保存・振興に

長年寄与した個人をたたえている。令和4年度の古武道功労者には、天流流刀術の木村恭子第十七代宗家と初實釵理方一流剣術の植月求第十七代宗家が選ばれた。式典では高村正彦会長から、両功労者に表彰状と古武道功労章が授与された。(※124頁125ページに功労者の喜びの声を掲載)



演武始めは、小笠原流弓馬術による百々手式。この儀式は祈願・魔性退散や祝事・祭事の際に行われ、今年にはコロナ禍の終息を祈願して演武が行われた。

続いて古武道功労章を受章した木村恭子氏が宗家を務める天道流薙刀術。木村宗家は見事な太刀合わせを披露し、会場から大きな拍手が送られた。

第42回大会以来の出場となった琉球古武道は釵術・鎌術・棒術の型と組手を披露。棒術を演武した琉球古武道保存振興会の井上貴勝会長は「この大会は我々が誇りに思っている大会なので、出場できて名誉なことだと感じています。武道の源流である古武道を少しでも多くの方々に見ていただく機会はとても貴重だと

思います。国内を中心に海外にも20カ国以上に支部があります。日々の稽古を大切に謙虚に活動してまいります」と述べた。

第2部は古武道功労章受章の植月求氏が宗家を務める初實釵理方一流剣術を皮切りに、各流派が脈々と伝わる洗練された技を披露した。

甲源一刀流剣術は第16回大会以来30年ぶりの出場。この流派は江戸中期から逸見家に代々継承されてきた剣術の流派。演武では長剣の形を披露。演武後に逸見義清第十世宗家は「日頃稽古してきたことを日本武道館で披露できたのは本当に光栄です。久々の出場でかなり緊張しました。伝統文化として次の世代に繋げていくために日々の稽古に励んでいます」と語った。

演武納めは森重流砲術。短時間に次々と発砲する「早放」、横一線に並んだ演武者が青木孝代表師範の号令に合わせて一斉に発砲する「備打」を披露、耳をつんざくような大音響で大会を締めくくった。硝煙が立ち込める中、内田康介日本古武道協会理事兼事務局長が閉会を宣言し、大会は終了した。



①⑨ 初實弔理方一流剣術



①⑤ 天神真楊流柔術



③① 神道夢想流杖術



②⑥ 大東流合気柔術琢磨会



①⑩ 澁川流柔術



③③ 甲源一刀流剣術



⑮ 荒木流軍用小具足



⑧ 尾張貫流槍術



③ 心月無想柳流柔術



③② 長谷川流和術



②⑤ 雲弘流剣術

※写真の○数字は演武順



⑩琉球古武術



②③金硬流唐手・沖縄古武術



④卜傳流剣術



②⑨小野派一刀流剣術



⑤二刀神影流鎖鎌術



⑬鐘捲流抜刀術



⑨ 野田派二天一流剣術



②⑦ 戸田派武甲流薙刀術

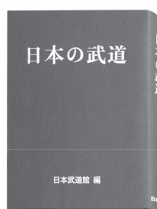


①⑥ 直心影流薙刀術



①④ 兵法タイ捨流

◎ 日本武道館の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道の全てを網羅した、武道関係者必携の書。武道小百科事典としても役立つ充実した資料編を巻末に収録。



高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著

(四六判・上製・564頁)

教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授 佐藤謙太郎 著

(四六判・上製・386頁)

禅の思想と剣術がどう関わってきたか、武道伝書を基に検証し、剣術が剣道へと発展昇華していく過程をわかりやすく解説。



刀剣の歴史と思想

筑波大学大学院准教授 酒井利信 著

(四六判・上製・346頁)

日本人が、刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か。日本刀剣思想の独自性を確かな史料を基に考察する。



人を育てる剣道

剣道範士八段 角正武 著

(四六判・上製・268頁)

剣道の真価は、氣力を練り上げ、肚をつくる修行にある。人間の土台をつくる剣道を目指す著者渾身の剣道指導論。

◎ご注文・お問い合わせ

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号

日本武道館 教育文化部出版広報課

TEL(03)3216-5147/FAX(03)3216-5158

<http://www.nipponbudokan.or.jp/>



①小笠原流弓馬術



⑦柳生心眼流體術



③④鹿島新當流剣術



②④竹内流柔術日下捕手開山



⑦貫心流居合術



⑫ 當田流剣術



⑳ 宝蔵院流高田派槍術



㉔ 神道無念流剣術



「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。

相撲の成立から現状を経て将来像へ



四六判・上製・422頁・2,400円＋税

相撲
その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究科教授
新田 一郎 著

日本武道館発行 単行本のご紹介

編集発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号
<http://www.nipponbudokan.or.jp/>



②⑧和道流柔術拳法



⑥立身流兵法



②①円心流居合据物斬剣法



③⑩為我流派勝新流柔術



③⑤森重流砲術

出場流派・演武者一覧（演武順）

- ①小笠原流弓馬術
小笠原清忠、小笠原清基、鎌形佐知夫、吉田昌伸、佐藤昌一、飯島陽一、玉川智、鎌形雅子、宇田川照子、田丸達男
- ②天道流薙刀術
木村恭子、田室美知子、小野由紀子、廣瀬幸子、額原和代、福田啓子、玉置捷子、熊澤八穂、近藤圭恵、福岡知子、小嶋弘美、細井優子、木村有里、清水真由美
- ③心月無想柳流柔術
岩永源三郎、桑波田秀祐、八島和雄、井上優一郎、堤毅、奥村宗一郎、仲尾昭二
- ④卜傳流劍術
小山秀弘、小山隆秀、小山秀晃
- ⑤二刀神影流鎖鎌術
細川隆、小松英正、森本誠
- ⑥立身流兵法
加藤紘、加藤敦、山田市郎、齊藤勝、樫村典久、菅家啓一、江尻裕介、吉田龍三郎、圖司行克、山崎恒弥、鈴木美智子、石毛勝也、渡辺紳一、栗原美、梅谷咲太郎、前田稠、大畑勇氣、近藤恭弘
- ⑦柳生心眼流體術
梶塚靖司、寺久保敦也、高橋慶太、吉岡一紀、坂本哲朗、藤澤勝也、バー出人、前田樹里
- ⑧尾張貫流槍術
下村幸裕、神戸信夫、下村直樹、赤羽根大介、森治紀、神原会弥、佐藤博、若尾洋子、木村凌弥、新垣ダニエル、宇治川桂子、西皆子
- ⑨野田派二天一流劍術
荒木章博、松永季勝
- ⑩琉球古武術
井上貴勝、岡林俊雄、高橋淳也
- ⑪澁川流柔術
吉野明嗣、村井道由、東英章
- ⑫當田流劍術
神亮太、齊藤澁樹
- ⑬鐘捲流拔刀術
楠原弘之
- ⑭兵法タイ捨流
上原エリ子、山本隆博、田添信一郎
- ⑮天神真楊流柔術
坂本忠彦、渡邊卓也、岩倉淳、八木宏之、小澤修一、古川眞一、リトシン・イゴ
- ⑯直心影流薙刀術
大谷康裕、谷口克美
- ⑰貫心流居合術
松本秀邦、石田隆、守山健三、重吉伸一、渡邊孝敏、上田峻平
- ⑱荒木流軍用小具足
千葉明、栗林征喜、坂本浩一、片桐克彦、河野真一、鶴岡嘉治、鶴岡優子、鈴木優輔、高橋杏奈
- ⑲初實鋤理方一流劍術
植月求、植月重幸、正木英登
- ⑳宝蔵院流高田派槍術
駒喜多学、尾野好司、若林幹雄、美馬博幸、土屋明洋、高橋英樹、西本昌永、船谷哲司、加藤了嗣、田口昌昭
- ㉑円心流居合据物斬剣法
増本孝和、高槻幸雄、田村こずえ、徳山和彦、中平輝彦、山村行仁、川岸正三郎、松田純、北野光一、桐山衣代
- ㉒神道無念流劍術
小川武、中島宏之、萩崎昭、中館秀光、齊藤政文、落合毅、土屋正則、相馬功一、高田一男、玉根純也、浅野史明、中野雅浩、牧戸昌邦、山谷怜子、掛川成彦、神明新太郎、吉田明永、中村唯
- ㉓金硬流唐手・沖繩古武術
早坂ゆかり、早坂義文、大村朝洋、江幡妙子、佐々木透
- ㉔竹内流柔術日下捕手開山
竹内藤一郎、竹内久朋、長尾春義、氏房功、八木隆志
- ㉕雲弘流劍術
井上弘道、井上照貴
- ㉖大東流合気柔術琢磨会
小林明彦、福岡慎輔、堂上佐代子、三上篤志、中岡飛鳥、後藤剛一
- ㉗戸田派武甲流薙刀術
建入久代、永埜浩司、本多日向子、小野貴史
- ㉘和道流柔術拳法
大塚博紀、寺田英視、坂巻明、押田良光、三田篤、ロヒヤフアンデルフェルデ
- ㉙小野派一刀流劍術
矢吹裕二、石崎徹、浅井雅史、庄嶋卓司
- ㉚為我流派勝新流柔術
根本憲一、唯之、谷啓二、村木浩治、沢幡伸男、小國英智
- ㉛神道夢想流杖術
大竹敏行、小塚禮子、神之園文男、矢野多衛子、林映子、安田嘉一、小林光雄、岩田善信、時任晴美、平原喜孝
- ㉜長谷川流和術
桑原巡、宮下邦博、倉田勝己、逸見彰一、石原賢一、小野晴佳
- ㉝甲源一刀流劍術
逸見義清、坂本浩文、新井邦芳
- ㉞鹿島新當流劍術
内田嘉昭、横尾廣美、今井淳也、小松崎政史
- ㉟森重流砲術
青木孝、角替進、片山直巳、石井和己、市川恵一、佐野翔平、小林透、芦川正彦

（以上35流派、敬称略）



日本武道館西口正面で記念撮影するカンボジア学生ら一行

JENESYS2022 日カンボジア交流（武道） カンボジアの学生らが日本武道館を訪問

外務省が推進する対日理解促進交流プログラムのうち、アジア大洋州地域を対象とした交流事業「JENESYS（ジェネシス）2022」で来日したカンボジアの学生ら22名が1月12日、日本武道館を訪れた。

この事業は、武道はもとより日本文化などへの理解を深めることを目的とし、日本の武道に関心のあるカンボジアの大学院生、大学生、高校生を日本に招聘（しょうへい）。1月11～17日に東京や沖縄を訪問し、関係団体による講義、交流、ホームビジット（一般家庭への訪問）などを行った。

日本武道館では吉川英夫日本武道館理事・事務局長から日本武道の歴史についての講義を受けたあと、大道場を見学し、日本武道への理解を深めた。

●講義

講義は午前10時から日本武道館大会議室で、吉川英夫理事・事務局長が日本武道の歴史について行った。

9 武道を紹介する動画を流したあと、吉川理事・事務局長が日本武道の歴史、先人たちの教え、日本武道館の歴史と事業、礼の大切さなどを説明。最後に「武道には卒業はないといわれています。死ぬまで精進・努力することが求められます。このことが世界に広がる武道の魅力ではないかと思っています。武道は人間を強く立派にする人間形成の道であり、これは万国共通です。皆さんに

はこれからも武道の稽古に励んでいただき、カンボジアで武道がますます盛んになることを期待します。コロナ禍が収束した際には、武道による日本との交流が再開するように願っています」と述べた。

●質疑応答

講義後の主な質疑応答は以下の通り。

Q. 古武道の流派はいくつあるのか。
A. 明治の頃には剣術が約800、柔術が約200あったと文献に残っています。日本武道館が組織した日本古武道協会には現在77流派が加盟しています。



講義の後には記念品の交換が行われた



武道に関する動画を真剣に見つめる参加者たち



日本武道館内を見学する参加者たち



Q. 日本の小中学校では武道を学ぶことができるのか。

A. 小学生は町道場やスポーツ少年団など地域の活動の中で学ぶことができます。中学生は平成24（2012）年から全ての中学校で武道の授業が必修となりました。その種目は先ほど紹介した九つの武道が対象で、中学1・2年生は必ず武道の授業を受けています。

Q. 合気道と柔道の大きな違いは何か。

A. 技術的には、柔道は襟や袖を掴み、投げ技や固め技が主体です。合気道は体捌きによって手首などを掴んで相手を押さえたり、投げたりするのが特徴です。

Q. 中学校での武道必修化にあたり、問題点はなかったのか。

A. 課題は、いかに安全に子どもたちに指導できるかでした。現在まで大きな事故は聞いていないので、安全に学習を進めることができます。



最後にカンボジアの学生らと吉川理事・事務局長が記念品を交換した。参加した学生から「今回の講義

で私たちは日本の武道の意味や歴史について理解を深めることができました。武道の意義や価値が多岐にわたっているということを知ることができました」などと感想と感謝の言葉が述べられた。

●施設見学

学生たちは西口正面玄関で記念撮影を行った後、東京オリンピックの柔道や空手の成績を記した銘板や競技を行った大道場などを見学。大道場ではコンサートの設営が行われており、参加者たちは真剣にその様子を見つめていた。

大道場の天井からつり下げられた大きな日の丸が見える2階観客席では感嘆の声が上がり、時間いっぱいまで記念撮影をしたり、日本武道館に関する質問を職員に投げかけていた。



少林寺拳法グループ 2023年新春行事

全国から900名が参加

「2023年新春行事」が1月15日、少林寺拳法グループ総本部（香川県多度津町）で、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて開催され、全国から延べ約900名の拳士、保護者、関係者が参加した。

午前9時から宗昂馬師家の年頭挨拶が行われ、「新春行事を4年ぶりに開催できたことに本当に喜びを感じます。今年のテーマは『新道』です。世界中でさまざまな問題が起きていますが、問題の解決策は過去ではなく未来にあります。我々は、時代を見据え、次世代の少林寺拳法を支える若い皆が充実できる組織を目指してまいります」と今年の抱負を述べた。

新春法会、新春修練会と続き、新春修練会では、少年部と一般にそれ



年頭挨拶をする宗昂馬師家

ぞれ会場を分け、各指導員による指導が行われ、参加者は新年の修練ができる喜びを共に感じていた。

午後2時から、多度津京極少林寺拳法太鼓から始まり、「耕せにっぼん」代表の東野昭彦氏を特別講師に迎えて講演が行われた。不登校や引きこもりの若者たちと向き合い、未来に希望を見いだせるよう「人に喜ばれることの大切さ」を伝えながら自立支援を行う内容に参加者は心を打たれ、時には涙ぐむ姿も見られた。90分間があつという間に過ぎる感動の時間となった。

4年ぶりの開催となった新春行事。兎年の始まりとして、それぞれが飛躍する一年を誓い、新たなスタートを切ることができた。

（文・写真Ⅱ 一般財団法人少林寺拳法連盟）



新春修練・少年部



新春修練・一般の部



東野昭彦代表（左）による新春特別講演会



東野代表（左）と対談する宗師家



多度津京極少林寺拳法太鼓

